

市田 知子

明治大学農学部教授



日本を訪れる外国人が年々増え、昨年はついに3千万人を超えた。その大半はアジア圏、とくに中国や韓国からであり、多くは東京大阪などの大都市を中心に過ごしている。

アジアの人々が買い物や飲食を楽しむに訪れるのに

ひと意見

対し、都会の喧騒を離れ、豊かな自然に浸ろうとするのはむしろ欧米の人々である。その昔、大英帝国のイザベラ・バードは日光から北海道まで通訳を伴って旅し、『日本奥地紀行』の中で自然の美しさとともに、女性でも安全に旅行できる

ことを称賛している。そして現在、たとえばドイツ人にとっても、日本は、自分たちの住む国とはあらゆる面で異なるが、便利で安全で衛生的な国と映っている。道端にゴミが落ちていないのを見て、「日本の学校では生徒に掃除をさせるので、そのためにはないか」と感心する。

便利で安全、衛生的

一昨年、ドイツに滞在し

た際、研究所の人から「日本の農村についての番組を視た」と知らされた。公共放送ARDによる熊本県多良木町についてのドキュメンタリー（2016年）で

一方で、ドイツ国内の農村の人口減少を案じ、窮状を訴える映像もいくつか目にした。共通するのは、農業、鉱工業など、かつての基幹産業の衰退、若者の

クも整備されていない。北海沿岸の村の食料品店では、連日、大量に売れ残ったパンを廃棄している。チエコ国境付近の農村では、週末に帰省した若者が「こ

や政府から補助金を獲得したりしていたが、それらは一部の優良事例ということになるのか。和食やマンガに続き、日本の農業や農村も注目されつつある。異文化としてだけではなく、安全面、衛生面、利便性の面で優れているからである。訪日観光客もますます増えるだろう。そのためにも日本語以外の表示や説明、民泊を含む宿泊設備を増やしていただきたいと思う。

日本の農村はどう映るのか

ある。同町に福岡県から移住した集落支援員の方が廃校寸前だった小学校を存続させ、高齢の住民の手助けに奔走する様子が詳細に描かれていた。

流出と高齢化、鉄道・バスなどの公共交通の廃止、食料品店の撤退、医療機関の欠如、そして空き家の増加である。「現代のインフラ」である高速通信ネットワーク

ここには仕事がないからね」と嘆く。これまで調査で訪ねた所では、住民が自ら動いて、空き家を改修して店にしたり、有能かつ熱意のある町長が欧州連合(EU)